

ありがとう～そして 50 周年日を目指して

— 相模原市テニス協会 40 周年に添えて —

相模原市テニス協会 会長 高橋 宏彰

ありがとう～そして 50 周年日を目指して。。。

相模原市テニス協会は今年平成 25 年に設立 40 周年を迎えます。

加盟団体は平成 25 年 4 月 1 日現在で 39 団体、構成員は 1,500 名を数えます。創立以来、ここまで成長してこられたことを、創立にあたってご尽力・ご苦勞をされた諸先輩方、および、テニスの普及・成長にご協力をいただいた数々の関係者の皆様に心より御礼と感謝を申し上げます。40 周年を迎えるにあたり、30 周年（平成 15 年）からの 10 年間を振り返ってみたいと思います。

最近のテニスでの話題というと、クルム伊達公子選手の 2013 年ウィンブルドン選手権 3 回戦進出（42 歳での 3 回戦進出は同大会史上最年長）や、男子では錦織圭選手が 2013 年 5 月のマドリード・マスターズ 3 回戦でフェデラーを破り、同 6 月の全仏オープンでは日本人選手として 75 年ぶりにベスト 16 に進出。ATP ランキング 11 位(2013 年 8 月 5 日付)と、すぐにもトップ 10 入りする活躍を見せてくれています。

一方で、体罰やセクハラ等、スポーツの意義に反する行為で注目を集める競技団体のニュースもあり、改めてテニス協会の役割として、地域貢献とともにスポーツ／テニスの品位と信頼を維持向上することへの責任を痛感する次第です。

相模原市テニス協会が誕生してからの 30 年間の歩みに関しては、30 周年の佐々木会長(当時)の寄稿文にありますように、諸先輩方の多大なご尽力によって現在のような組織的な活動ができるようになりました。

【東日本大震災】

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分頃にこれまでに経験したことのない大きな揺れを感じました。それが三陸沖を震源とする M9.0 の大地震であり、東北地方を中心に津波、火災などの甚大な被害が出ていると知ったのは、地震からかなり経ってワンセグ TV によるニュースを見てからでした。

役員・理事の中には親戚や知り合いが被災された方もいました。

幹部役員も公私ともに時間が取れない中でしたが、余震が続くなかでもあり、安全を考慮して 3 月 19 日に予定されていたウィークエンドカップを中止にしました。

震災 2 週間後の 3 月 26 日には臨時幹部会を開き、テニス協会として「できること」「できないこと」を話しあい、結果、テニス協会としてはテニスを通じて貢献していくことが唯一の存在価値であると考え、『市民の健康維持,向上に直接的・間接的に貢献できる事業』について

ては積極的に実施し、スポーツを通じて市民の方々に元気を出していただき、できるだけ広く参加者を集めて義援金を広く募ることで貢献していくことに決めました。

7月最終週から始まる市民選手権に関しては、心配していた参加者数も前年の522ペアとほぼ同じ514ペアの参加があり成功裏に実施することができました。少しでも相模原市のテニス愛好者の皆さんに元気を出していただくサポートができたのでは、と思います。役員や関係各位には仕事やご家庭のことで大変な中、テニスでの地域への貢献のために時間と工数を割いていただいたことを心より感謝しています。テニスしている人は皆、やさしいです！

【競技関係】

市民選手権では第37回(平成24年)から小学生の部を新設、第38回(平成25年)は男子6ペア、女子3ペアの参加がありました。定着して拡大していくまでにもう少し時間がかかるとは思いますが、テニスの入り口を広げていく重要な取り組みの一つと位置付けて継続していきたいと思っています。また第38回(平成25年)からは男子75歳以上の部を新設し10ペアの参加がありました。ますます盛んなシルバー層の活躍は相模原市の財産の一つです。

あじさいカップ、市民選手権ともに参加者数はほぼ横ばいですが、最近3年間はやや減少傾向にも見えます。世界的なテニス人口の低下傾向も聞きますが、従来からの「入口を広げ、全体をレベルアップする」を合言葉に、テニスの普及活動に取り組んでいく所存です。

第33回(平成20年)から、従来、加盟団体から数名+競技委員会担当役員で運営していた市民選手権とあじさいカップを、競技委員会内に常設した委員のみで運営することとしました。委員には平成12年創立のねんりんTCから多くの人財に参加していただいています。それまでは各加盟団体から参加いただいた委員が毎年変わるため、不慣れな運営に四苦八苦し、スムーズな運営ができるようになる頃には大会が終了するということを繰り返してきましたが、常設委員による運営とした結果、毎年の運営ノウハウが委員に蓄積され、さらに毎年運営方法を改善していくことができました。素晴らしい進歩です！

今後もより洗練された競技運営で相模原市のテニスの「入口を広げ、全体をレベルアップする」ために貢献していけるものと思います。

実業団については平成21年度(2009年)春季大会から、市内の一般のテニスプレーヤーにも団体戦の楽しさを知る機会を提供することを趣旨に、相模原市を活動拠点とするサークルや同好会にもB級・C級トーナメントへの参加資格を付与する試行を開始しました。(B級リーグ戦は県大会予選を兼ねているため従来通り加盟事業所のみの参加制限)

その結果、男子B・C級トーナメントでは平成20年度(2008年)秋季大会の48チームから平成25年(2013年)春季大会では73チームへとほぼ倍増。女子トーナメントでは7チームから21チームへと3倍の規模になり、大会会場での観客数も増え応援も盛り上がるなど雰囲気が一変しました。一方で、事業所チームが上位に残れずに上位大会への入れ替えに苦慮す

る事態も発生してきました。「入口を広げ、全体をレベルアップする」という基本的な趣旨は維持しつつ、より現実的な運営の検討が必要な時期に来ていると思います。

【普及指導関係】

10年前の30周年時(平成15年)に相模原市テニス協会に所属する公認指導員は59名でしたが、その後の指導普及委員会の積極的な活動によって、現在は117名の公認指導員を擁するまでになりました。今では協会に加盟しているサークルや同好会、ねんりんTCからも毎年定期的に指導員を輩出する良い循環になってきています。考えてみてください。。ひとりの指導員が10人・20人の生徒さんにテニスをコーチし、教わった生徒さんの中から次の指導員が出てきて、また10人・20人の生徒さんにコーチする・・・いつかは相模原市が日本一テニスが盛んな市になること、間違いありません！

指導員の拡充は「入口を広げ、全体をレベルアップする」ための重要な要素の一つです。指導者のレベルアップのため平成20年から主任コーチ育成プログラム（のちにリーダー養成講座に改称）を年間プログラムとして新設し、田辺 学先生に講師をお願いして、毎月、世界の最新のコーチング技術と理論を私たちにもわかりやすく噛み砕いて教えていただいています。ここ相模原で世界の最新のコーチング技術を、全国に26人（2012年4月現在）しかいないマスター教師である田辺先生に直接教えていただけるなんて（！）鳥肌が立つような光栄なことです。

また、指導員を目指す方のためには平成17年（2005年）から年に1～2回程度不定期に実施していた球出し研修会を平成22年から(2010年)年間を通じて月1回実施するプログラムを開始し、毎年新たな指導員の誕生と、継続的なレベルアップへの足掛かりができました。ボランティアで企画・実施にあたっていたらいてる指導普及委員会の指導部の方々、および、参加して熱心にメモをとり実習に励んでいる指導員や指導員を目指しているテニスプレーヤーの方々には本当に頭が下がります。

指導普及活動の大きな転機といえるのは平成17年(2005年)11月27日と翌平成18年11月23日に総合体育館でマナー・キッズテニス教室を開催したことがあげられます。

主催；(財)日本テニス協会、 主管；相模原市テニス協会、

後援；文部科学省、NHK、読売新聞社および相模原市教育委員会、

相模原市体育協会、神奈川県テニス協会、

協力；小笠原流礼法常任理事本部教授 鈴木万亀子総師範

キッズ・ジュニアの指導に関しての基本的な考え方や必要な道具・備品などが充実し、実践する土台が出来上がったことは指導普及活動の大きな財産となっています。

指導普及委員会の事業も研修会やテニス教室、サークル等のイベントなど年間で31事業に増え、役員の負担も大きいと思いますが、「入口を広げ、全体をレベルアップする」活動がますますしっかりと根ざして広がっていくことを期待するところです。

【次の10年に向けて】

平成26年3月には淵野辺公園テニスコートが6面増設になりオムニ12面となります。残念ながらクラブハウスや専用のトイレ・シャワー等は新設されませんでしたが、従来以上に事業運営がやり易く、また効果的な活動ができるようになります。合わせて、上位大会をここ相模原で開催できる体制になります。

今後も引き続き「入口を広げ、全体をレベルアップする」を合言葉に、協会に携わった諸先輩の設立当初の熱き想いを脈々と引き継ぎながら、相模原市のテニスの普及・発展に一層の貢献することで、相模原市テニス協会の存在感をより高めていけるよう、関係する皆様と協力して取り組んでいきたいと思ひます。

ありがとう～そして50周年目を目指して。。

平成25年9月5日